



MIRAI KEYEK IRON

エム・ケイ・トレーディング

エム・ケイ・トレーディングからアイアンヘッド『MIRAI KEYEK (ミライキーク)』が投入された。バックフェースに3つ、トゥ側へ1つ、計4カ所へ3つの重量帯(2、4、7g)を組み合わせることで、長さやバランス、重心位置がコントロールできるのが最大の特長。さらに、ネックは専用スリーブによるシャフト脱着が可能でフィットティングにも一役買うという触れ込みだ。

今回はギアの賢者・ソクラテス永井延宏プロが7番アイアン、ウエッジをスチール&カーボンシャフトを装着してテストする。

『ミライキーク』アイアン #7の第一印象は

永井 『ミライキーク』アイアンは、いわゆるハーフキャビティモデルで、ソール部はかなり厚く取っております。また、ソ

ール面の高さがきちんと出ていて、バウンスはそれほど強いという感じではありませんが、エッジ部分がパンパー的な役割をするので抜けがよさそうな印象。バックフェースとトゥ側には

白いウエイト(2g)を計4個装着。全体的に同じウエイトが入っているので、ニュートラルな状態です。これを基準に打ってみて、球のつかまりや高さなどを調整していくわけです。

構えた印象は、非常に綺麗なヘッド形状で、ネックの繋がりからフェースの見せ方は、姫路の名工・品川清氏が最終研磨を行っているということで、完成度の高さを物語ります。

シャープな形状といえ、どちらかというとコンパクトヘッドに分類されますが、それほどシビアには感じません。

7番のロフト角は30度で、ピッチングエッジを基準に4度ずつフロア。ややストロングロフ

トですが、アドレス時の長さとのバランスも含め7番アイアンらしく見えます。

実際に打ってみると

永井 まず、7番アイアンにDIS200を装着し打ってみました。打感の良さというのが手に伝わってきますし、非常にやわらかくて、深重心的な作用で球を押ししてくれる。そして、ソールの抜けですね。エッジからフラット部にかけて、パー





っと当たっていくので、スピード感があります。
『キークアイアン』はシャープなヘッド形状なので、シャフト軸線の近いところで打つ印象。また、ヘッドも敏感に動いてくれるので、球を操作したい方、つかまりを求める方はこのままの重量設定でいいでしょう。

一方、現代的スイングでクラブを長く引つ張っていくような動きを求めるのであれば、トゥ側のウエイトを重くして、シャフトから遠いところに負荷をかける、というのも見えてくると思います。

さらに後方のウエイトを重くすると、一層深重心となり、球を前へ前へと押す挙動を感じま

した。ボールの高さを出したいなど、細かい重量調整を行い、そしてシャフトの長さやシャフトの種類で組み合わせれば、弾道の変化を素直に出せるでしょう。

カーボンシャフトを検証すると…

永井 次はカーボンシャフトのセッティングに移ります。同じ7番のヘッドですが、カーボン仕様ということ、長さが0.5インチ長くなっています。

先ほどは4つのポジション全てにホワイトの重量帯(各2g)を装着しましたが、今回はヒール側2つを赤のウエイト(各4g)に変えてみます。つまり、重心距離をさらに短くしたヘッドが効いた状態です。そして、0.5インチ長くなった分、シャフトの動きや振り心地がどう変わるのか検証していきます。

打ってみると、データ的にはカーボンシャフトらしく、高さはつきり出しました。やはり、ヒール側のウエイトが増すと、明らかにヘッドが深く入っていく挙動が出てきますね。私もウエ

“ **アイアンフィッティングに革命! 重量調整& 脱着式ソケット搭載『ミライキーク』を徹底検証** ”

Title

イト調整を重ねながら、微妙にヘッド調整を行います。イメージよりヘッドが深く入らない時は、ネックやヒール側へ鉛を貼るんです。そうすると、素直にシャフトを押し込んでいってくれるようなフィードバックになります。

今回はカーボンシャフトなので、もう少し動いてくれると予想しましたが、ヒール側のウエイトが相殺したようで、カーボンシャフトらしい動きというよりは、スチールシャフトのように厚く入るセッティングになりました。

逆にもう少しカーボンらしさを出した場合は、ヘッドから遠い方へ重量を出してあげたり、単純にスピードを出したいという方ですと、ヘッド全体重量を落とすといいでしょ。換言すれば、振り心地の良いカーボンシャフトのメリットを引き出すということです。

工房マンやフィッターの方は、パツと考えた

けで、様々なバリエーションが自分の頭の中に思い浮かぶのではないのでしょうか。それを長さであるとか、シャフトの種類、硬度を含めて組み合わせると無限大にクラブをカスタマイズできる。ゴルフアークにフィッティングする一本というのが必ず見えてくるはず。



ミライキークアイアン#7 (DG-S200) のトラックマンDATA

アイアンも ガチヤカチヤの 時代到来



エム・ケイ・トレーディング
菅野 實 社長



エム・ケイ・トレーディング
菅野 崇 氏

『ミライキーク』 アイアンのコンセプト

GEW (以下G) まず、開発
経緯についてお聞かせください

菅野 スイングは十人十色で、タイガー・

ウッズと私(身長160cm)が同じ長さ、
重さ、硬さ、グリップのクラブを使って

も同じパフォーマンスは発揮できません。
ゴルフアークを持つそれぞれの悩みをヘッ
ドで解決できないか、そこが原点です。

G 『ミライキーク』アイアンの特長は、
ウエイト調整のビスがバックフェース側

に3つとトゥ側にも1つあり、計4ヶ所
で重量調整ができる点です

菅野 重心距離や重心深度が容易に調整
できるほか、ウエイトをすべて外した一
番軽い状態から最大重量の差は28gと

なりますので、シャフト長は1.5
インチ違うクラブを組むことができる仕

組みです。
G その幅がグッと広がっているところ
が非常に興味深い

菅野 実はアイアンのカスタマイズにつ
いては、私もかなり古くから取り組んで
います。アイアンクラブは通常、長さの

ピッチ幅は0.5インチですが、そこを



MIRAI KEYEK IRON

番手	ロフト角(°)	ライ角(°)
6	26	61
7	30	61.5
8	34	62
9	38	62.5
PW	42	63
AW	46	63
48	48	63
52	52	63
56	56	63.5

素材:S20C 製法
製法:軟鉄鍛造、完全CNCミリング
仕上げ:4層メッキ(ニッケル+ブロンズ+ニッケル+クロム)
価格:脱着スリーブ付各1個6万6000円、なし各1個5万5000円

8分の5ピッチにしたり、やや長尺にしていくんですね。そうすると、基準となるのがピッチングウエッジの長さになって、番手が上にいけばいくほど、長尺効果が出てきます。

G つまり、ヘッドスピードアップであるとか、シャフトのしなりが変わり、明らかに弾道の変化が表れる

菅野 その通りです。一般ゴルフファーは、そういった調整がなかなかできない環境だったと思いますが、『ミライキーク』アイアンなら簡単にできるようにあります。アイアン本来の目的である「正確に距離を刻む」というパフォーマンスを発揮するヘッドになっていると思います。

専用ホーゼルで

シャフトの脱着も容易

G ネットク部分は、専用ホーゼルにより脱着式になっています。工房は多くの試打クラブが不要となり、フィッティングもしやすくなる

菅野 はい。ひとつのヘッドで、スチールやカーボンシャフトの中から様々な重量帯や硬さを装着して試打することができます。そして、4つのウエイト調整を行いながら、その方にとってマッチする部分を探していくわけです。それが見つかったら最終的には接着をして、オンリ

ーワンのアイアンとして提供します。

「縦の距離を打ち分ける」といった恩恵が得られなかったゴルフファーにとっては、これまでとは違う世界が見えてくる可能性が十分にあると考えます。

姫路の名工・品川清氏が 最終研磨

G ラインアップは

菅野 新製品は6番(26度)〜PW(42度)、AW(46度)のほか48、52、56度のウエッジまで計9個のヘッドを用意。その真ん中に位置するのがピッチングウエッジで、これを基準にしたロフト角は4度ピッチの設定です。

G 仕上げにもこだわっている

菅野 ヘッドはS20C軟鉄素材をCNCオールミーリング加工したのち、最終研磨は姫路の名工、品川清氏による手の込んだアイアンです。さらに4層メッキ(ニッケル+ブロンズ+ニッケル+クロム)も施しました。軟鉄素材ですので、ロフトやライの調角もできますから、ヘッド重量以外でも最適な弾道を作って、距離を打ち分けるという組み合わせが見えてくると思います。



姫路の名工・品川清氏

想像を超えた MIRAI KEYEK IRONの真価

永井延宏プロが 52度のウエッジを打ってみると

永井「『キークウエッジ』(52度、DG)は、サンドウエッジのような丸みを帯びた形状とフラットソールが特長的。こちらもCNCミリーニングですが、ソール部のミルド痕が消えますので、品川氏による最終研磨の様子が伺えます。また、アイアン同様、計4カ所でのウエイト調整ができ、エッジの厚みもしっかり出ています。

構えてみると、まるで手のひらでアドレスしているような安心感がありますね。アプローチも含め使い勝手が良さそうです。シュツ!

フルショット時の飛距離は、キャリーできつちり100ヤード。フラットソールのパインツという抜けの良さが、さらに打点のスピードを上げ、それをボールスピニング量につなげているのが分かります。そのことはトラックマンの数値が裏付けています。

基本的にウエッジは、「ヘッド重量が重い」というのが定説ですが、軽いヘッドでテクニクを使いこなすゴルフファーがいるのも事実です。でも、どちらかというと、平均的なHSの方や女性ゴルフファーはそこにミートしてきます。

現状、吊るしのウエッジは、軽いヘッド重量のモデルはほとんどありません。そこを『キークウエッジ』のようなカスタムクラブに対応すれば、糸口が見えてきます。

アプローチ用としても パフォーマンスは高い

永井 52度はサンドウエッジ寄りの顔ですので、開いて打っても全く違和感がありません。ソールの跳ね方もフェースが開く方向へ跳ねてくれ、高さとラインが自分のイメージのやや右に出ていくところもアプローチ用としてのパフォーマンスが伺えます。

そのソールの跳ね方は、ボールを拾い上げる方向へ作用するので、上から打ち込んでもスウィープに入る人にも合いそうです。さらに56度と組み合わせればグリーン周りから好結果が得られるでしょう。